■■■　2013年度にむけて　■■■

ＫＦＣの総会について書く前にすこしだけ橋下大阪市長や私が出会ってきた同様の人たちについて述べさせてもらえればと思います。

私がとりくんできた、外国人への理不尽な差別反対の取り組みには、あからさまな反感をつづったハガキや電話、メールが送られたり、ネットへの書き込みがあります。

人間ですから反感をあらわにした「いやなら帰れ」、「ガイジンのくせに・・・」といった文字や言葉は鉛の玉のようにこころを痛め重くします。

それはつらく苦しいことですが、次世代に少しでも良い社会をと自分が決めてやっていることですからそれも覚悟してやっています。

それとは違う形ですが、よく聞いた言葉に、「差別されているのは外国人だけではない・・」、「日本だけではなく世界中がやっている・・」、「差別はなくならないと思う・・」、「立場を鮮明にするとよくないので議論すべき・・・」といったことです。
これらは、事実や自分の考えを述べているだけで自分は差別を肯定しているのではないというふうな枕ことばや補足と並べられることが大半です。

人間に知性や感性があり、機械と違うのは、その言葉や文字が使われる状況や文脈をとらえることができ、その言葉や文字を使う人間のスタンスを理解できることです。

自分を安全圏に置きながら弱者を揶揄することは、あからさまな排除より時に人を排除する巧妙さを広げる分、悪質なことがあります。

子どもを亡くした親に、「子どもを亡くした親は世界中にいる」という言葉を投げることがどれほど残酷で卑劣なことかを理解できない人は少ないでしょう。

元従軍慰安婦の人たちの耳に届くことが分かっていながら、よそでもやっていたという言葉を投げることが何を意味するかを理解できないなら人は知性も感性も失うしかありません。
私が出会ったきた多くの「橋下」的発言は確実に世の中を悪くしていくものでした。
そんなものが広がらないようたくさんの人の知性や感性が磨かれればと思います。

前がきが長くなりましたが、ＫＦＣの総会が5月25日に開かれ、昨年度の報告と今年度の方針が承認されました。

2012年度の総括として事業が、団体名称の枠を超え、福島の子どもや日本人の弱者にも広がっていること、一方で事業を担うスタッフのルーツ・国籍国は7ヶ国にのぼり日本人スタッフ２３名、マイノリティスタッフ２１名（2013.3時点）がともに担う形で事業が進められていることを共有しました。社会から排除されがちなマイノリティが、外国人という枠を超えた社会的事業を担っているということは、もっともＫＦＣが誇ることだと考えます。

ＫＦＣの２０１３度事業は、周辺化される、孤立させられる人たちと共に歩むという姿勢を多くの人と共有することに努力し事業を広げたいと考えます。
私たちは自分たちのくらす世界が少数者に貧困や無知、過酷な仕事を押し付けている厳しい現実を見てきました。

その構造は、「近代」化、「国際」化していく中で周辺化される人たちに厳しい状況を強いる私たちの社会、意識の問題です。

しかし、だからこそかもしれないが、私たちは、勇気をもって少数者、周辺化される人の状況を変える行動を起こせば、必ず支えてくれる輪が広がる人の力があることも知っています。

ＫＦＣが地道に継続し活動してきたことで得られた信頼や絆を深め、次代を見据えた、人として誇れる事業を展開できればと考えます。
２０１３年度は、ＫＦＣの名前にある「フレンドシップ（友愛）」を共有し、ＫＦＣの輪が広がる年にしたいと思います。（理事長　金 宣 吉）

◆在日ベトナム人高齢者の背景と現状

今回の総会前の学習会では、４月からＫＦＣのスタッフとして働いているハ・ティ・タン・ガから「在日ベトナム人高齢者の背景と現状」という報告がありました。内容は、在日ベトナム人の来日の経緯、高齢者の生活の現状、これまでNGOベトナムinKOBEで行ってきた高齢者支援事業、今後の課題についてでした。

ベトナムでは、長く病気で寝たきりになるという高齢者は少なく、「風にあたったため突然死ぬ」という突然死（「コロリ死」と表現していました）が多い、子どもが親の面倒を見るのが当たり前というベトナム人高齢者と、日本の文化にも慣れた若い世代で親の面倒を見る余裕のない在日ベトナム人の意識の差がある、日本のように60歳からは第2の人生が始まると、今までより元気になるというのではなく、60歳を超えると社会の役に立たず、死を待っているという考えの高齢者が多いという話がありました。そういった現状を変えるため、シルバーカレッジの学生との交流事業を行い、元気な60代の生き方もあることを知ることでベトナム人高齢者にも元気になってもらえるような企画を実施したり、介護予防のためのレクリエーションと食事会を開催していたという報告がありました。

今後は、介護保険の情報を提供して利用を促していくこと、ベトナム語ができるヘルパーの育成、高齢者同士の交流の場づくりが必要性であるとのことでした。

KFCの介護事業でも既にベトナム人の利用者が数名でてきていることもあり、大変興味深い内容の報告でした。　（志岐 良子）

■■■ＫＦＣ日本語プロジェクト■■■

◆私は9年前に日本に来ました

私は９年前にベトナムから、日本に来ました。日本に来て、新しい生活になかなか慣れませんでした。いつも忙しい日本の生活は外国人として私は大変でした。しかし、先生たちや職場の同僚などまわりの温かい日本人のおかげで、私はここまでこれました。

一年半前、生活日本語という教科書を日本語からベトナム語に翻訳する仕事をしたことから、日曜日クラスの通訳兼日本語の先生になりました。人の役に立つようになれました。
それ以前、私はKFCの日本語学習者でした。日本語の一級を取るために、KFCで日本語を勉強を始めました。一週間一回だけです。時間があまりない私でも勉強しやすいようにと、ボランティアの先生は勉強の資料や家での勉強スケジュールなどを作ってくれました。現在の実力や苦手な部分を把握して、いろいろな教え方を考えて頂きました。先生が頑張って教えるから、私も頑張って勉強しなければならないと思いました。それで一級が取れました。
今まで、頑張って、勉強して、日本で生活できるように頑張って働く私に、新しい道が開けました。日本語一級を持って日本語を教えられるとは思いませんでしたが、先生は私に良い機会を与えてくれました。日本語をベトナム語に翻訳したり、通訳したりすることでちょっと自信を持ちました。そして、日本語を教えることに挑戦しました。最初、いろいろな困難がありました。日本に来る前、私は日本語の３級を取れて字も書けて、会話もできたから、日本語を初めて勉強する学習者の大変さを理解できなかったので、学習者のレベルに合わせて教えるのではなくて、自分のペースで教えていました。学習者にストレスを与えてしまったと感じました。

どんな風に教えたら良いかと考え直すこと、一人一人の学習者にふさわしい教え方を考えないといけません。学習者の立場から援助すべきだとわかって来ました。
ボランティアの先生たちの熱心な教え方をみて、自分も教えることにもっと時間と力を入れなければなりません。ボランティアの先生たちの授業を見学しながら、自分の欠点に気付いて、直してきました。
日本語を教える仕事は難しい面がたくさんありますが、これからも頑張ってやって行きたいです。ベトナム人にもっと、もっと役に立ちたいです。（ベトナム出身の日本語教師　ド･ゴック･テイ）

◆料理交流会　（ブルガリア料理と日本料理）
5月31日（金）の午後一時から、神戸市立地域人材支援センターの料理室で料理交流会が行われました。
一緒に料理をして、食べましょう！という催しです。
今回はブルガリアから来日されて3年目のNeli Koychuvaさんがブルガリア料理を紹介して下さいました。ネリさんと支援者の宇野さんが、メニューからレシピ作り、材料の仕入れ等を短期間で準備されたということでした。
献立は
◆ホームメイドヨーグルト
（kisero mlyako）
◆なつスープ（tarator）
◆サラダ（shopska salata）
◆ミートボール（kyufte）でした。
それぞれの作業前に、学習された日本語で説明され、皆で手伝って作りました。
ブルガリアといえば、ヨーグルト！
まず、牛乳を57℃に温めてLB81ブルガリアヨーグルトをスプーン１～２杯加え12時間保温します。作ってきてくださったものと　市販のものを食べ比べましたが、酸味が少なく、マイルドで食べやすいという皆の意見でした。自家製のヨーグルトがスプーン一杯の残りから作れたら経済的ですね！
そのヨーグルトを使って冷たいスープ。火を使わず細かく刻んだきゅうりにヨーグルトと水を入れてあわたて器で混ぜるだけ。ナッツとスパイスが味を引き立てて、日本の夏にも最適の爽やかなものでした。ここで、きゅうりの切り方がお国によって違うのだ、という事が話題になりました。
サラダは、野菜を切ってドレッシングで和えるのですが、別にドレッシングを作るのではなく、野菜、チーズを盛った上にオリーブオイルと塩を加えてまぜます。ダイナミックで、なんだかさすが！って感じがしました。
ミートボールは我々が作るハンバーグと同じですが、よく捏ねるのが特徴でしょうか。それと、周りに強力粉をつけて多めの油でじっくりと焼くこと。
デザートは支援者の後藤さんが豆乳プリンを作ってくださって、コース料理が出来上がりました。
二時間ほどかかりましたがとっても美味しく、エキゾチックなご馳走を堪能しました。そして、食後、ネリさんがサプライズプレゼントとして、本業の歌を披露して下さいました。日本語の「赤とんぼ」と、ブルガリアのフォークソングを。素敵な声にうっとり、聴き惚れました。良い時間でした。

お互いの文化を知ることは、お互いの理解を深めることにもつながり、言葉の練習にもなります。次回は日本語学習者の方々にもたくさん参加していただき、日本文化を紹介する機会も作られたらいいなと思いました。（谷先 晴代）

■■■ＫＦＣ外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆学習支援に携わって

私はブラジル、カナダ、シンガポール、中国と長期間海外生活を過ごし、これらの国の人々にお世話になりました。現役を退いた今、友人からKFCの事業について紹介されました。海外でお世話になったので小さな恩返しとして、日本で生活している外国にルーツを持つ子どもさんの学習のサポートをお手伝いする事にしました。

自分の子ども以外に勉強を教えるのは学生時代の家庭教師以来のことなのでちょっと不安でした。現在、ベトナムの小学五年生の二人の勉強を毎週一回見ています。時々集中力が切れ、脱線はしますが、二人とも優秀で、礼儀正しく、明るくよい子です。ベトナムには一度旅行した経験がありますが、さらに親近感が増したように思います。二人は日本生まれで言葉の問題がありませんので助かります。今年の秋で一年を迎える事になります。

現在日本を取り巻く国際情勢は必ずしもよいとは言えません。すでに実施されているかも分かりませんが、学習支援だけでなく、一年に一、二度屋外での遊び等を通して外国の子どもや家族達とのふれあいの場を持つことも小さな国際親善や相互理解につながるのではないでしょうか。

最後になりましたが、神戸に暮らす外国人支援のためのボランテイア活動をおこなっているKFCについては敬意を表します。多くの皆さんの理解と賛同をいただければ幸いです。（吉村 晴夫）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆念願の広島バス旅行

ＫＦＣ帰国者新長田交流会の総勢94名の一行は、小雨の降る早朝に神戸を出発し、広島バス旅行へ行きました。途中、サービスエリアでお弁当を食べて、13時に広島平和記念公園、原爆ドーム前に着きました。梅雨独特の湿気を含んだジワーとした暑さです。

68年前の8月6日、その日の朝も、徐々に暑くなる夏の日ざしを感じながら人々は仕事に学校に出かけて行ったことでしょう。そして8時15分、原子爆弾が落とされました、、、。

翻って2013年6月11日、すっくと伸びた木々と観光客の雑踏はかつての悲劇と妙なコントラストを醸し出し、私たちの思いは複雑です。ほとんどの帰国者の方は初めてで、ヒロシマへ来たという実感をかみしめているようです。全員で記念写真を撮った後、数人のグループに分かれてボランティアガイドに公園内を案内してもらいました。公園内の記念碑や像を巡りながら当時の状況などの説明を受けました。「原爆の子の像」と周りの折鶴は特に興味を引いたようです。その後資料館へ入館しました。資料館では、広島がヒロシマである理由をまざまざと見せつけられます。想像を絶する地獄絵、痛ましい資料の連続です。広島の町並みとその頭上の空中に据えられた、今まさに炸裂しようとする球（原子爆弾）の立体模型に私は身震いしました。皆さんはそれぞれ何を感じ、何を思ったのでしょうか。

当日の滞在時間は2時間程度、バスで往復10時間。事前学習として5月28日と6月4日に、広島の原子爆弾や被害について学習し、「ヒロシマ・母たちの祈り」というビデオも鑑賞しました。今回のバス旅行は、ただ楽しいだけというわけにはいきませんでした。でも仲間と一緒に行く遠足です。そこは強者たち、楽しむための準備は万端です。中国歌謡の全集と歌う順番を書く用紙、持ち歌のＣＤの持ち込みあり、娯楽番組のＤＶＤあり、バス席のご近所に配るお菓子まで、

それぞれの気の利いた小道具によって、長時間のバス旅も時間を持てあますことなく、楽しく過ごすことができました。　　謝謝。（奥　優伽子）

◆中国残留邦人帰国者等が秧歌（ヤンガ）踊りで神戸祭り初出演

2013年5月19日（日）の第４３回神戸祭りのステージ行事（花舞台）に中国残留邦人帰国者等が秧歌踊りで出演することが出来ました。ご協力いただいた方々、雨の中見に来ていただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

今年の神戸祭りは午後から本降りの雨でした。前日から出演できるかをどうか沢山の問い合わせがありました。私は「必ず出演出来ますよ」と答えながら、内心、年齢が高く、持病も持っている方が多いので悪天候になることを心配していました。中国の地方レベルでは、雨が降れば行事は中止という習慣がありますが日本ではそうではありません。私自身がどうしてもこの機会を逃がしたくないという気持ちから、「出演出来ると思います」と答えたのかもしれません。

「ＫＦＣ帰国者新長田交流会」で秧歌を踊りたいという声が上がったとき、私たちは実際どうなるのかなと不安を抱えながら道具の準備を進めました。しかし、８０代の一世の方々が太鼓を目の前にしたら、自然とたたける様子を見て安心するとともに調達できてよかったと思いました。帰国者の秧歌踊りは中国と日本の戦争、中国人養父母という特別な歴史背景の中で身につけた文化です。日本に帰ってきた後、日本人であるという高い自尊心の下で、日本語学習を始め、日本の習慣・文化・ルールなどを一所懸命学び直してきました。但し、自分たちが幼い時から40年も50年も生活をし身に染み付いた中国文化に対して複雑な感情を持っているように私には感じられます。中国にいたときは「小日本」といわれ日本に帰ってきたら「中国に帰れ」とさえ言われる理解しがたい現実の中に生きている彼らのことを考えれば分からないこともないです。今日の日本は「多文化共生」が一般行政用語として定着していますが、実際のところの「本当の多文化共生」というのは難しいと感じています。自分の近くで大勢の人が日本語以外の言葉でざわざわと話されるとイライラしない日本人の割合はどのぐらいでしょうか。帰国者の中には、中国では社会的な地位もあって多くの人を纏めてきたのに、日本に帰国してからは家に引きこもってしまっている人もいます。

一方、高齢になってやっと自分たちの楽しみが出来る時期が来たとき、病気になり活動が出来なくなっているケースも増えています。彼らは幼少期から苦労してきたにも係らず、人の役に立とうといつも優しく、人に迷惑をかけずに生きて来ました。実際、帰国者の餃子交流会で皮作りからアン作りまで全部コーディネートしてくれていた方が、重い病を患い今回のまつりに出られなくなりました。非常な残念なことです。高齢になっている一世の方が多いので、１回１回の出演機会を大切にしていかなければいけないと改めて思いました。

このような活動は、帰国者たちが多くの方々に理解と交流を求める場となるのではないでしょうか。確かにこれだけでは足りませんが、私たちとして出来ることから始め、自信を深め自己表現の場になればいいと接に願っています。

最後に参加した帰国者たちの感想を紹介します。重ねて、来年度の神戸祭り（出来ればパレードに）に参加できることを祈りましょう。

一世女性「天気は雨だった。寒くもなかった。花舞台で秧歌踊りをした。色とりどりの衣装を着て扇を振りながら、太鼓を叩き、中国吉林省の故郷の踊りを踊れて嬉しいし、気持ちよかった。みんなが見ていて少し緊張した。」

二世女性「神戸祭りの天気は雨でした。しかし、私たちみんな、踊りが楽しかったです。おもしろかったです。」

一世男性「うまく演奏できた。みんなが見ていて気持ちよかった。雨だった。嬉しかった。気持ちよかった。」(呼和徳力根)

■■■ ハナの会■■■

◆多文化なデイサービスセンターハナの会

今朝、ハナの会に入ったとき、ハルモニ（おばあちゃん）たちが、「ニーハオ」「ニーハオ」と中国残留邦人帰国者の方に挨拶をして、お互いに「挨拶ぐらい出来たらいいよね」と話した後、「ザイライって、いらっしゃいっていう意味でしたっけ」と私に聞いてきました。

ハナの会の朝はいつも「おはようございます」「アニョンハセヨ」「ニーハオ」という言葉から始まります。もっとも最近は中国の李さん、ベトナムのガさん二人の新スタッフが加わることによって、ベトナムと中国のスタッフが2人以上いることになり、スタッフ同士の母語が混じるので、利用者たちも一層外国語に興味を持つようになってきています。これは大変いいことだと思います。なぜなら、ハナの会の利用者には日本人、在日コリアン、中国残留邦人帰国者等がいて、スタッフにも日本人、在日コリアン、韓国人、ベトナム人、華僑や中国人など、多様な文化やルーツを持つ方々がいます。自然と出来る多文化な環境ですが、お互いの文化を理解し合おうという姿勢がもっとも大切になってきます。日々のことですので、文化の違いにより、食事やお風呂などでもトラブルも少なくないです。一度体験利用をした中国残留婦人の方が、歓迎されていないと感じてしまって利用に結びつかなかったことも事実です。確かに、デイサービスの利用者は高齢になっているので、若い人に比べて新しいものを受け入れるのが難しいことは誰でも理解できると思います。それでも、文頭に書いたように少しづつ変わってきていると私は感じています。

ハナの会へは最近ベトナムの方からの問い合わせも3件ほどありました。一方、在日コリアンの一世の方々が中心だったハナの会は、一世のハルモニ、ハラボジたちの介護度が高くなり、デイサービスの利用が困難な方が多くなっています。そのためにはＫＦＣとしてはグループホームや小規模多機能型居宅介護（10月開所予定）の整備に取り組んでいます。が、これからハナの会はもっと多様化して行くことは確実です。そこで、今までのマイノリティ支援をベースに活動して来たハナの会の強みを活かし、この多様化に対応していきたいと思います。レクレーションでは、かつては韓国のチャンゴと踊りが中心でしたが、今は、日本や韓国・中国の歌、花札やトランプ、中国の跳棋（てぃおうち）、さらに高齢者に一般的な、塗り絵、カード合わせなど多様なプログラムが同時進行しています。しかし、全員が楽しめるレクリエーションはまだまだ足りないことは事実です。先月、ハナの会のスタッフみんなが相談して、食事レクリエーションを始めることにしました。添付の写真が張り切ってチヂミを作る皆の様子です。これからも、ハナの会は多文化的楽しいデイサービスを目指して行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。（楽しいレクリエーションや、いろんな芸を披露していただけるボランティアの方を募集中！一度でもいいですので、今まで頑張ってきた利用者たちに楽しい思い出を一緒に作っていただけませんか）(呼和徳力根)

■■■ グループホームハナ■■■

◆遠足・須磨水族園

このたびグループホームハナでは去る５月２２日、２階９名、３階７名の利用者さん、スタッフ７名とボランティア２名、それに外部からのボランティアの方が５名、の総勢28名という大所帯で、神戸の須磨水族園にイルカショーを見に、遠足へ行ってまいりました。

当日は朝から晴天に恵まれ、まさに絶好の遠足日和となりました。
皆さんは午前中はホームにて過ごされ、美味しい昼食を召し上がった後、１３：００に８台のタクシーとグループホームの車を利用し須磨水族園に向けて出発、１３：１５分には皆さん無事に到着されました。
到着するとまずは水族園のメインである大水槽へ、皆さん大きな水槽に圧倒されながらも、中には初めてこられた方もおられた様子で、皆さん興味津々で大水槽に見入っておられました。
まずはこの大水槽の前で記念写真を一枚撮影、その後は大急ぎでイルカショーの場所取りへと向かいました。
皆さんうだる様な暑さの中、急いで場所を取りに来たおかげで、絶好のポジションを確保する事に成功しました。
遠足のメインイベントであるイルカショーでは皆さん正に大興奮！！イルカが豪快にジャンプして水しぶきが上がる度に拍手喝采で大喜びされ、クイズでは２階のＴさんが答えようと大はしゃぎで手を上げるも、惜しくも指名されず残念でしたが、皆さん大興奮の内にイルカショーは幕を閉じ、一同帰路につきました。
２時間という短い時間でしたが、一同大きな事故もなく無事に帰ってくる事が出来本当に良かったです。ホームに帰った後も利用者様から「楽しかった、また見に行きたい」、「次はもっとゆっくり見に行きたい」「ショーが最高におもろかった」と声をかけて頂きました。
また今回はKFCの職員のみならず、外部からのボランティアの方５名にもお手伝いいただき大変助かりました、いたらぬ点も多かったことと思いますが、「またいつでも声をかけてくださいね」お言葉を頂き大変ありがたく思います、本当にお疲れ様でした。（淡田 美津子）

◆わかりあえなくても、いっしょにいること
ハナでヘルパーを初めてそろそろ1年になります。しんどいところでもあるのですが、おもしろさも感じています。そのことについて書いてみたいと思います。
わたしたちヘルパーの介護は、生活のお手伝いで、医療とくらべればささいなことにしか見えないかもしれません。でもこれらのささいなことが実は人と人を結ぶキッカケにもなるような気がします。たとえば、「ウンコ、シッコ」の時、この時ほど、利用者さんとヘルパーがガッチリと密着（？）して結ばれることもないでしょう。利用者さんにとっては「排泄」じゃなくて、「ウンコ、シッコ」なんです。利用者さんは自分流のやり方がある。だからウンコとシッコ、病院だとそれが「排泄」になって、「自分」がなくなる。またヘルパーそれぞれにもやっぱり「自分」がある。自分なりの介護のやり方がある。だからたとえば「座ってシッコしたほうがいいよ」とすすめる、でも利用者さんは立ってやる、それだから床はビショ濡れ、1日に何回も掃除しないといけない。こんなときに僕たちヘルパーはどうしたらいいのか迷います。しかしそこには「利用者様はお客様」のような一方的な介護にはない、人と人を結ぶキッカケをつくる介護があるように思います。利用者さんもヘルパーも、自分を出して、もめながら、それでも解決できず、相手のことがますますわからなくなります。それでもなんとかいっしょにいる、それがハナらしい介護であり、そこには「共生」のヒントがあるように思えます。ハナでは「多文化共生」というのが目標なんですが、その言葉はそんなにドラマチックじゃない。なぜなら認知症、高齢者、外国人、ヘルパー、そんな人たちは、共生どころか、社会のスミに追いやられているのが現状だし、そこにいる人たち同士でもうまくいかないことが多いです。しかし、それでもなんとかいっしょに居ます。それがハナの「共生」なのかもしれません。「ともに暮らす」という現実は複雑。だから「共生」は「自分とは違う人やイヤな人とどのようにして、いっしょにいるか」ということではないでしょうか。ハナでは介護から、違う者同士がわかりあえなくても、いかにい

っしょにいるかということを考えさせられることが多いです。
　私は大学院でハナでの「介護がつくりだす共生」について研究しています。みなさんからいろいろとお話を聞きたいと思っています。よろしくご協力をおねがいします。（古山　裕基）

■■■ 今後の予定■■■

■事務所のお盆休み

8月13日(火)～8月15日(木)

■「多文化共生」を考える研修会2013

8月19日(月)【「多文化共生」社会に向けて】
8月21日(水)【マイノリティの歴史から学ぶ
～人権と平和の尊さ】
8月26日(月)【移住民との共生～海外から学ぶ】
於　国際健康開発センター３Ｆ交流ホール

8月23日(金)【外国人の子どもの教育】
於　海外移住と文化の交流センター
（旧神戸移住センター）５Ｆホール

■子ども交流会

8月1日(木)　　於　地域人材支援センター

■KFC帰国者新長田交流会

音楽会　8月6日(日)　11:00～12:00（予定）
於　地域人材支援センター

■KFC日本語プロジェクト

7月27日（土）
14：00～16：30 連絡会 於　KFC事務所
17：00～ 暑気払い

■KFCのど自慢大会

（日本語P＆デイサービスセンターハナの会）
８月３日（土） 13:00～15：00

■すきやねん！KFCキャンプin明石

8月5日(月）～8月12日(月)
於　明石市立少年自然の家